

記 載 例（新基準 A をイメージ）

申請者名 A 市〇〇会

事業名	〇〇を活用した地域振興事業	
事業区分	主となる区分	(3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業
	関連する区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト / ハード / ソフト・ハード（該当項目に○印を記入）	
重点支援対象事業		
実施箇所	A 市〇〇、B 町〇〇、C 村〇〇 等	
実施期間	事業開始年月日	令和 7 年 6 月〇日
	事業終了年月日	令和 8 年 2 月〇日
事業概要	①事業目的 ・ A 市と B 町と C 村にはいずれも観光資源として活用されてきた〇〇があり、それぞれの地域の団体が独自に保全活動や観光振興に関する取組を行ってきたが、それぞれの団体のメンバーが高齢化等により、活動の継続が難しくなってきたおり、観光客も減少傾向にあり、商店街や街並みの賑わいが失われつつあった。 ・ こうした状況を打破するため、各市町村の団体が連携することで、活動の基盤を強化し、地域の賑わいを取り戻すための取組を行った。	
	②事業内容（モデル性、発展性についても記載） ※新基準 A により交付決定を受けた事業のうち、異なる市町村の団体と連携して事業を実施するとしたものは、どのように連携して事業を実施したかも記載 1. 〇〇活動協議会の発足 時期：令和 7 年 7 月〇日 場所：A 市〇〇〇 参加者：A 市、B 町、C 村でそれぞれ活動してきた団体（計約〇人） 結果：今後、連携していくこと、活動の方向性を確認し、〇〇活動協議会が発足することとなった。これまでそれぞれ行ってきた活動の共有し、連携した観光振興活動の検討も行った。 2. 3 市町村の〇〇を活用したデジタルスタンプラリーの開催 時期：令和 7 年 10 月〇日～〇日 場所：各市町村の〇〇等 結果：3 市町村の〇〇や商店街を巡るデジタルスタンプラリーを開催した。 参加者には〇〇の保全活動等の体験してもらい、なかなかできない経験であった、また来たいという声があり高評価であった。 参加者数：〇〇人	

○モデル的で発展性のある事業である理由

- ・これまでそれぞれの団体で実施してきた取組を連携して実施することにより、体制が強化され、個々の団体で懸念事項であった人材不足等を補い合い、取組の継続性を高まった。
- ・それぞれの地域の〇〇等を一体的に周遊するような観光コンテンツを協力して作り、連携した地域全体の観光集客力を高め、地域の賑わいにつながった。

③事業効果（可能な限り数値化すること）

- ・保全活動への参加者の増：令和7年度実績〇人（令和6年度実績〇人）
- ・デジタルスタンプラリーの参加者　〇人

【新基準Bにより交付決定を受けた事業は以下も記載】

成果目標（※1）	
達成年度（※1）	令和　　年度
達成状況（※2）	

- ※1 成果目標及び達成年度は、事業計画書別紙に記載したものを転記
- ※2 達成年度を次年度以降としている場合は、進捗状況を記載。達成状況や進捗状況が計画どおりでない場合は、その理由と今後の対応も記載

④広報表示（長野県 地域発 元気づくり支援金事業である旨の表示）

- ・イベント周知用のチラシ、ポスター等に「長野県地域発元気づくり支援金活用事業」と記載。

⑤特記事項（合意形成、諸手続、住民の参画等、特に説明すべき事項を記載）

- ・今後は地元企業からの協賛を得ることなど、資金面でも活動の強化を図りたい。また、来年度は〇〇に愛着を持ってくれた地域外の方が参加できるファンクラブの立ち上げなども検討中。
- ・2050 ゼロカーボンに向けたプラスワンアクション
デジタルスタンプラリー参加者に対して、マイボトルの持参を呼びかけた。

※ 計画時からの変更箇所は、便宜上
斜体で記載してあります。

◆実施内容別事業費内訳

区分		内容	積算（説明）	事業費 a	対象経費 b	補助率	支援金 基本額 c (b × 補助率)
ソフト事業	〇〇活動協 議会の発足	印刷代	@〇円 × 〇枚	25, 000 円	25, 000 円		
		使用料	@〇円 × 2 回	20, 000 円	20, 000 円		
		交流会 飲食費	@〇円 × 〇人	200, 000 円	0 円		
	デジタルス タンプラリ ー開催	システム 使用料	@〇円	600, 000 円	600, 000 円		
		広告費用	@〇円（詳細別紙）	200, 000 円	200, 000 円		
		景品代	@〇円 × 〇個	90, 500 円	90, 500 円		
	小 計			1, 135, 500 円	935, 500 円	3/4	701, 000 円
ハード事業							
	小 計			0 円	0 円	2/3	0 円
合 計				(A) 1, 135, 500 円	(B) 935, 500 円		(C) 701, 000 円

※市町村等の事業は、対象経費(b)は特定財源を控除した後の額を記載する。（特定財源を控除する
内容が未定の場合は暫定的に振り分けること。）

※支援金基本額小計欄は千円未満切り捨てとする。

◆実施内容別事業費内訳については、
「別添のとおり」とし、同じ項目が記
載された任意の様式で置き換え可

◆特定財源内訳

特定財源	説 明	金 額
地方債		円
分担金・負担金・寄付金	地元企業協賛金	80,000 円
事業収入		円

助成金	〇〇財団助成金	100,000 円
補助金	補助金名：A 市〇〇〇補助金	100,000 円
合 計		(D) 280,000 円

◆支援金充当額

市 町 村 等	総事業費 A	対象経費 B	支援金基本額 C	支援金充当額
	円	円	,000 円	,000 円
公 共 的 団 体 等	総事業費 A	対象経費 B	支援金基本額 C	
	1,135,500 円	935,500 円	701,000 円	
		特定財源 D	自己財源 E (A-D)	支援金充当額 (C と E のいずれか少ない額)
		280,000 円	855,500 円	701,000 円

※公共的団体等の支援金充当額は、支援金基本額(C)と自己財源(E)を比較していずれか少ない額とし、千円未満切り捨てとする。

(添付書類)

- 1 事業実績図書（位置図、見取図、設計図、設計書等）
- 2 契約書、支出証拠書、給付完了検査書（写し）、写真等事業の実施がわかる書類
- 3 公共的団体については、会計簿・補助簿（収入も記載）、支援金専用口座通帳の写し
- 4 その他地域振興局長が必要と認める書類

※事業内容、事業費内訳等については別紙（様式任意）添付での対応も可

記 載 例（新基準 B をイメージ）

申請者名 ○○○プロジェクト

事業名	○○○○○○事業	
事業区分	主となる区分	(3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業
	関連する区分	特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト / ハード / <u>ソフト・ハード</u> （該当項目に○印を記入）	
重点支援対象事業		
実施箇所	○○町○○	
実施期間	事業開始年月日	令和 7 年 6 月 ○ 日
	事業終了年月日	令和 8 年 2 月 ○ 日
事業概要	①事業目的 ・○○駅前の活気がかつてより失われつつあり、賑わいを取り戻すための対策が必要となっていた。 ・その一環として、駅前の好立地にある空き店舗を改修し、有効活用する。 ②事業内容（モデル性、発展性についても記載） ※新基準 A により交付決定を受けた事業のうち、異なる市町村の団体と連携して事業を実施するとしたものは、どのように連携して事業を実施したかも記載 1. 空き店舗の改修 ＜時期・場所＞ 令和 7 年 7 月 ○ 日～9 月 ○ 日 ○○駅前○○ ＜規模・方法等＞ 空き店舗を改修して、以下のスペースを整備した。 ・通学で駅を利用する学生が利用できるスペース（学習・交流） ・ビジネス目的等で駅を利用する町外者等が利用できるスペース（テレワーク、打合せ等） ・地域情報（観光・特産品等）を展示、発信するスペース 2. ワークショップの開催、地域情報の発信 ＜時期・場所＞ 令和 7 年 10 月 ○ 日、11 月 ○ 日、1 月 ○ 日（改修後施設） ＜規模、方法等＞ ・利用学生や地元住民が参加するワークショップを開催。 （ワークショップの参加者：延べ○人） ・活動内容の一つとして、観光情報発信スペースに設置する観光情報等の地域の魅力を発信するコンテンツ（冊子・動画等）を作成した。 ・学生達は自ら地元情報を発信した経験により、地域の魅力を再認識につながった。 ・町外者の利用者にも地域の情報を知ってもらう機会を創出。	

○モデル的で発展性のある事業である理由

- ・単に空き店舗を活用するだけでなく、様々な取組につながる拠点として施設整備を行った。(若者の居場所、交流、地域の魅力の認識、町外者等に対する地域情報の発信、駅前利用の利便性の向上等)
- ・将来的には、地元企業等の賛同を得ながら、さらに交流や企画を広げた活動を行う場となるよう検討していく。

③事業効果（可能な限り数値化すること）

- ・ワークショップ参加者数：延べ〇人
- ・施設利用者数：〇人（内訳・・・）

【新基準 B により交付決定を受けた事業は以下も記載】

成果目標（※1）	交流・情報発信拠点の整備
達成年度（※1）	令和7年度
達成状況（※2）	当初計画した内容どおりに拠点整備することができた。次年度以降は当施設で〇〇〇といった活動を実施することを計画中。

※1 成果目標及び達成年度は、事業計画書別紙に記載したものを転記

※2 達成年度を次年度以降としている場合は、進捗状況を記載。達成状況や進捗状況が計画どおりでない場合は、その理由と今後の対応も記載

④広報表示（長野県 地域発 元気づくり支援金事業である旨の表示）

- ・改修した施設に「長野県地域発元気づくり支援金活用事業」と記載した看板を設置。
- ・作成した地域情報を発信するコンテンツ（冊子等）に「長野県地域発元気づくり支援金活用事業」と記載。

⑤特記事項（合意形成、諸手続、住民の参画等、特に説明すべき事項を記載）

- ・施設を利用している学生達が自ら〇〇サークルを立ち上げし、〇〇といった活動を行っており、若者にとって様々な軽々ができる場となっている。
- ・今後は〇〇〇活動を計画中。
- ・今後も取組の継続していくために、〇〇〇といった資金調達を行う予定。
- ・2050 ゼロカーボンに向けたプラスワンアクション
ワークショップ参加者に対して、マイボトルの持参を呼びかけた。

※ 計画時からの変更箇所は、便宜上
斜体で記載してあります。

◆実施内容別事業費内訳

区分		内容	積算（説明）	事業費 a	対象経費 b	補助率	支援金 基本額 c (b×補助率)	
ソフト事業	ワークショップ開催	事務用品代		円	円			
		情報発信コンテンツ作成料		円	円			
			別添のとおり					
			円	円				
			円	円				
小 計				550,000円	550,000円	3/4	412,000円	
ハード事業	空き店舗の改修	工事費		別添のとおり				
	小 計			3,500,000円	3,500,000円			2/3
合 計				(A) 4,050,000円	(B) 4,050,000円		(C) 2,745,000円	

※市町村等の事業は、対象経費(b)は特定財源を控除した後の額を記載する。（特定財源を控除する
内容が未定の場合は暫定的に振り分けること。）

※支援金基本額小計欄は千円未満切り捨てとする。

◆実施内容別事業費内訳については、
「別添のとおり」とし、同じ項目が記
載された任意の様式で置き換え可

◆特定財源内訳

特定財源	説 明	金 額
地方債		円
分担金・負担金・寄付金	地元企業協賛金	100,000 円
事業収入	スペース利用料	30,000 円
助成金		円
補助金	補助金名：〇〇町〇〇補助金	300,000 円
合 計		(D) 430,000 円

◆支援金充当額

市町村等	総事業費 A	対象経費 B	支援金基本額 C	支援金充当額
	円	円	, 000 円	, 000 円
公共的団体等	総事業費 A	対象経費 B	支援金基本額 C	
	4, 050, 000 円	4, 050, 000 円	2, 745, 000 円	
		特定財源 D	自己財源 E (A-D)	支援金充当額 (C と E のいずれか少ない額)
		430, 000 円	3, 620, 000 円	2, 745, 000 円

※公共的団体等の支援金充当額は、支援金基本額(C)と自己財源(E)を比較していずれか少ない額とし、千円未満切り捨てとする。

(添付書類)

- 1 事業実績図書(位置図、見取図、設計図、設計書等)
- 2 契約書、支出証拠書、給付完了検査書(写し)、写真等事業の実施がわかる書類
- 3 公共的団体については、会計簿・補助簿(収入も記載)、支援金専用口座通帳の写し
- 4 その他地域振興局長が必要と認める書類

※事業内容、事業費内訳等については別紙(様式任意)添付での対応も可